

分類	投稿者氏名	事例名	所在地（都道府県・区市町村・通り名など）
①	屋代雅充	浜離宮庭園	東京都中央区

キーワード 該当事項No. : 101、105、106、109、110、111、113

●事例写真・図・スケッチなど…350～400dpi 程度の画質の jpeg 画像を貼り付ける（レイアウトは「前面」モードとする）



●（コメント欄）何が、どのような意味で、問題・優良とされるのか／あるいは提案事項／できるだけその判断理由を簡潔・明快に。

- 江戸時代からの由緒ある汐入の名園であるが、汐留の超高層ビル群の開発によって閉塞感がもたらされ、空が作り出していた開放感とその歴史的雰囲気完全に損なわれてしまっている。
- 眺望の障害に留まらず、歴史的な「意味性」の破壊を招いている。
- 新旧の併置によって全く新しい景観が創り出されたという見方も可能ではある。
- ちなみにフランスのパリ市では以前から、重要な文化財の周辺 500mの範囲には高層建築が建てられないよう規制がかけられ、歴史的な都市としての景観が維持されてきた。こうした実例を学んでいるにもかかわらず、東京では全くこうした景観への配慮がなされてこなかった。
- 近年、ようやく景観法に基づく景観計画によって背景を保全する動きが出始めてきたが、既に手遅れとなっているケースが少なくない。
- 類似の問題事例は各地の名園でも見られる（都内では清澄庭園、小石川後樂園、六義園、向島百花園、熊本市の水前寺公園、宇治の平等院など → 別事例シート参照）。